

巻頭言 「ホーリーシティ」

宇野 元

「昨夜、私は横になって寝ていた。すると、美しい夢を見た。私は昔のエルサレムにいた。…… エルサレム、エルサレム、門を開け。歌え。いと高き所にホサナ。汝の王にホサナを。」(The Holy City)

一夏を過ごした研究所は、エルサレムの城壁で囲われた地区、いわゆる旧市街の南西の城壁の外側にあり、シオンの山の傾斜地に位置していました。下はヒンノムの谷。旧約聖書の時代に子どもを偶像に捧げて火渡りをさせた、忌まわしい出来事が思い起こされる所で、神の裁きの場所をあらわすゲヘナはこの谷の名に由来します。一方、シオンの山には、最後の晩餐と聖霊降臨の場所とされる建物が残されています。

宿泊する部屋に入ると、案内してくれた人が、注意事項を伝えてくれました。朝、ベッドをおりて靴を履くときは、気をつけてください。靴の中にサソリがいることがありますから。それから、就寝中に体の上にといたら、じっとしているように。今振り返ると、背筋が寒くなりますが、おどろきはしたものの、毎日熟睡していたと思います。若かったからでしょう。部屋は研究所の庭に面していました。専任の庭師がいて、気持ちのよい空間を造形していました。エルサレムの夏は、日中は暑いものの朝晩は涼しく、カラッとしています。関東人の形容を使えば軽井沢のよう。荒れ野の世界のなかに緑豊かな憩いの場所があります。

旧市街は、狭い道が迷宮のように入り組み、密集する家や商店の軒先が濃い影を落としていました。ドイツ福音主義教会の「救い主教会」の礼拝に参加した日のこと。石造りの会堂の中はひんやりとしていて、明るい戸外から入ると暗く感じられました。御言葉と聖餐による礼拝。「これはあなたのための御体です。」「あなたのための救い主の血です。」礼拝が終わり珈琲が用意された中庭へ出ると、お昼前のさわやかな光が降り注いでいました。夜にはバロック音楽の演奏会が予定されていると聞きました。深い暗闇に囲まれながら、星々の輝きが集まる人々を照らしたことでしょう。

パンデミックの時。世界を恐れが取り囲んでいます。エルサレムの町を荒れ野が取り囲んでいるように。そして、私たちの日常に白昼の濃い影のように伴います。それにもかかわらず、勇気をいただく。明るい日を浴びるような心の回復を賜る。力ある恵みが、聖書の言葉とともに、イエス・キリストのうちに備えられています。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ 16, 33)。